

令和4年度 むつみ幼稚園 自己評価結果の総括表

1. 本園の目指す幼児像

○元気に挨拶ができる子ども ○強いからだ(健康)と優しい心をもつ子ども ○何事にも一生懸命になれる子ども

○生き生きとした素直な心で、物事が見られる子ども ○基本的な生活習慣を正しく身に付けられる子ども

2. 本年度の重点的に取り組む目標…表内縦書き赤字

3. 評価項目の達成および取り組み状況

重点目標	評価項目						コメント		
		取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果	総括評価	評価結果に関する説明・意見書	
①丁寧 一人一人を受け止める	幼児一人一人を丁寧に受け止める (幼児理解を深める)	4	幼児理解を深め記録を取り、それを次の保育に活かしていく	3.4	4	遊びや生活の中で、自分の思いや気持ちを出せるようになった	3.4	A (3.4)	・評価結果から、幼児一人一人を丁寧に受け止め、発達にあった配慮や援助を考え、保育を進めることが職員全体に定着してきたように感じる。その結果、幼児の姿に安心感・安定感が見られ、自分の思いを伝えようとする姿が見られるようになった。また、個人記録を写真や文章でまとめることで、幼児の興味関心や友達関係を再確認することもできた。 ・しかし、課題の多い幼児も年々増えてきているため、更に幼児を見とる力や幼児理解を深めていく必要性が課題となった。
		3	幼児と対話しながら一人一人に合った配慮や援助を考える		3	自分の思いを言葉で伝えようとするようになった			
		2	幼児と関わりながら一人一人の幼児を分かろうとする		2	安心感・安定感の中、遊んだり生活したりするようになった。			
		1	幼児一人一人をよく観察する		1	何をしてもよいか分からず不安な幼児の姿も見られる			
①自己 生活や遊びの環境 構成	好きな遊びに集中して取り組める環境づくり	4	振り返りから幼児の興味関心を踏まえ環境構成をする	3.1	4	友達とやりとりしながら好きな遊びに集中して取り組むようになった	3.1	A (3.1)	・好きな遊びを見つけ、集中して遊ぶ姿が見られるようになった。」また「明日も、これで遊んでいい?」明日を楽しみにし、継続的な遊びも広がったいった。 ・日々の遊びの中で、一人一人の幼児が、何に興味・関心を持ち何を必要としているのかを模索しながら環境を整えるように努力を重ねてきたが、幼児の思いと教師の準備した環境が一致しないことがあって、反省につながった。 ・教師が幼児を理解し興味関心の把握をすることの大切さを感じる。幼児の理解と環境構成の学びの必要性が今後の課題となった。
		3	幼児一人一人が好きな遊びや安心して遊べる場所を準備する		3	好きな遊びに集中して取り組めるようになった			
		2	幼児一人一人の好きな遊びが分かっている		2	遊びの続きを楽しみにして登園してくるようになった			
		1	幼児と一緒に楽しく遊んでいる		1	友達の遊びをぼんやり見ている幼児もいる			
②生きる 力の基礎を 育む	自然に関わり様々な発見をする体験の充実	4	栽培物の花や実を造形活動に生かしたり食べたりして、命の大切さにつなげた援助をする	2.8	4	育てている花や野菜の生長に気付き喜んだり友達に伝えたりするなど、栽培物に関心を持ち、大切に作る気持ちをもつようになる	2.5	B (2.7)	・指導計画に基づいて、学年ごとにチューリップ・ひまわり・朝顔の種や球根を一人一人の幼児が栽培した。芽が出て葉っぱが出て花が咲いてととても楽しみに成長を見守った幼児もいたが、水やりを忘れて保育者が水やりをする等、関心のある幼児と関心のない幼児への保育者の個別の配慮が不足してしまった。 ・園庭に咲く花を見つけ、「この花の名前は?」関心を持ち、図鑑で調べ友達や保育者に名前を伝える姿が見られた。一人一人の幼児の興味関心に合わせた、配慮や援助が必要などところへの課題が残った。
		3	季節に応じて種や苗を植え、幼児と一緒に生長を観察して楽しむ		3	自分達で育てる花や野菜だけでなく、園内や散歩の途中の花や野菜にも興味をもつようになった			
		2	指導計画に基づいて、花や野菜などを育てる活動を保育に取り入れる		2	栽培の世話をするのを楽しみにして、生長や変化に気付くようになる			
		1	畑までの行き帰りの散歩で、季節の移り変わりを感ずるよう声をかける		1	幼児が、自然の事象や自然の様子を見るようになった			

② 生きる力の基礎を育む	自然に関わり自然の不思議さや大きさに気付く関わり方の工夫	4	振り返りの記録から、自らの指導と幼児の学びとの関わりを捉える	2.2	4	幼児が自然の変化に興味を示したり、自分たちの遊びを取り入れたりするようになった	2.7	B (2.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・植物や虫を通し、季節を伝える工夫を行なった。桜の木等の葉の色の変化の不思議さや植物の違いでの葉の形の違い等、遊びの中で伝えていった。 ・園外保育で、拾ったどんぐりや落ち葉、小枝を使って製作遊びにつなげることができた。 ・幼児への興味関心・遊びの広がりが、保育者によって違いが出てしまった。声掛けの違いや取り組みの違いなど、園内の職員研修で自然に対するの共通理解や学び合いの不足が今後の課題となった。
		3	幼児が自然と触れ合っている姿を記録し、幼児の興味関心を捉える		3	幼児が調べたり集めたり試行錯誤したりしながら、自然に関わるようになった			
		2	自然と関わる遊びを計画的に入れて保育している		2	幼児が、自然の事象や変化に気付き、表現したり伝えたりするようになった			
		1	自然と関わりながら幼児と一緒にあそぶ		1	幼児が、自然の事象や自然の様子を見るようになった			
③ 幼児が想像力を育む	絵本や物語を通して、想像力を育む	4	幼児が興味を示した絵本の登場人物になりきって表現し遊ぶ場を設けたり、機会を多く与えたりする	3.1	4	遊びの中で、絵本の主人公になったり、遊びに必要な物を作ったりする	3	A (3.0)	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の貸し出しをしたり、各保育室の絵本棚に季節や幼児の興味関心に合わせて、入れ替えるなど徹底して行った。幼児一人一人が、自分の興味関心にあった絵本や図鑑を手に取り読む姿が見られた。また、「今度、虫の図鑑が見たい」などと、自分の見たい絵本を要求できるようにもなった。絵本を通して、文字や言葉に興味関心を持ち、読んだり書いたりへの意欲につながった。 ・しかし、読んで書いて楽しむに終わり、主人公になったり、表現遊びまでに、つなげられなかったことが反省、課題となってしまった。
		3	保育室に絵本棚や図鑑を置き、自由に手に取り読める環境づくりをする		3	自分で興味のある絵本を手に取り読むようになったり、保育者に「読んで」と言ってきたりするようになる			
		2	幼児の遊びや発達に即した絵本や紙芝居を読み聞かせる		2	保育者が絵本を読み始めると、自然と子供達が絵本の前に集まる			
		1	絵本や紙芝居の読み聞かせを保育に取り入れる		1	絵本や紙芝居を聞いている			
表現することを楽しむ ③ 生き生きと	伸び伸びと表現する楽しさを味わう保育の展開	4	先生や友達に見てもらいたい気持ちを大切に、その子の表現を披露する場や展示する場を設けたり表現する機会を与えたりしている	3.4	4	作品を大切に扱い友達の作品にも興味をもって観て、イメージを広げて楽しむようになった	3.1	A (3.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の遊びで作ることができた作品を保育室に飾り、友だちや保育者、保護者に見ていただく機会を作り、幼児の自信につなげることができた。また、互いの作品を見せ合うことで友だちの良さに気付き褒めあう姿や自分の作品や友だちの作品を大切に作る姿が見られるようになり自己尊重、他者尊重が育まれ、関わりが深まりクラスがまとまってきた。幼児が豊かな体験ができるよう、年齢に応じた遊びや表現活動、環境構成を整えることができた。 ・しかし、主体的に活動が出来ていない幼児もいたため、幼児一人一人が自分なりに楽しさを味わえるような、教師の関わり、配慮が課題となった。
		3	幼児の遊びの様子から、幼児の興味・関心を捉えて表現活動を計画的に保育に取り入れている。		3	いろいろな素材に興味をもってやってみようしたり、自分なりの表現を楽しんだりするようになった			
		2	幼児の表現活動を面白がって、見たり聞いたりしながら、その子なりの表現を認めている		2	友達の表現や作品に興味をもち、見たり自分もやってみようしたりするようになった			
		1	表現活動を保育に取り入れる		1	先生や友達がするのを見ていることが多い幼児がいる			

☆取組と成果に関する評価結果

- A とても良い
- B まあまあ良い
- C 普通
- D 良くない(再検討)

○ 総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>今回の自己評価からむつみ幼稚園において目指すべき教育や教師としての姿勢は、教師間において活かされつつある。若手教師が多く、様々な面で学びと共通理解が必要と感じられる。これからも、研修や園内研修の計画をしっかりと立て、学びを広げて保育の質の向上を目指していきたい。今年度の重点目標は、ほぼ達成しているものの、課題も残った。「生きる力の基礎をはぐくむ」は引き続き次年度の課題として取り組んでいきたい。令和6年度の夏期の教師研究大会の発表園となっており、幼児の主体的な遊びの研究を進めていきたいと考え「幼児一人一人が自己発揮できるための指導」と「幼児が意欲的に遊びを進めるための環境構成」を新たな課題として取り組んでいきたい。一人一人の幼児と遊び、対話しその中で幼児理解を深め、遊びや生活の中で自己発揮できるような環境構成を心掛けていきたい。また幼児の一言一言を大切に聞き、幼児の思いを受け止めながら遊びを広げていきたいと考える。</p>

○ 総合的な評価結果

	課題	具体的取り組み方法
1	生きる力の基礎を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・体験したことを遊びの中で、深めることができる環境構成。 ・豊かな体験を通して、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現したりする。
2	幼児一人一人が自己発揮できるための指導	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の幼児と遊び対話する ・保育の振り返りや記録から、一人一人の幼児の内面を理解する。 ・幼児理解を深め、一人一人に合った配慮や援助を考える
3	幼児が意欲的に遊びを進めるための環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が手に取りやすいところに遊具・用具・素材を準備する ・幼児の遊びや興味・関心に応じた遊具・用具・素材を準備する。 ・幼児の発達に即したものを環境として置く

5. 学校関係者評価委員会の評価

- ・保育者が一人一人が幼児と丁寧に関わり、子どもたちの思いを受け止め日々保育を進めていることが自己評価にも表れている。
- ・一人一人の個人記録も継続し、保護者にも公開されているとのこと、先生方は大変と思いますが、保護者は喜ばれてるでしょう。是非、継続できることを望みます。
- ・この3年間コロナ禍の中でできなかった、幼小連携を令和5年度から再開できることを希望します。
- ・保護者にも、できる限り園に来ていただき、幼稚園の保育に関心を持っていただきたいと思います。
- ・家庭学級などの再開も考慮していただきたい。